

し せい にん
東邦大学付属
東邦中・高等学校
同窓会「自生人」会報

令和元年度号 No.39 令和元. 6. 14 発行
〒275-8511 千葉県習志野市泉町 2-1-37
東邦大学付属東邦中学校・高等学校同窓会
TEL/FAX 047-472-1160
URL <http://www.shiseinin.org/>
E-mail shiseinin@yahoo.co.jp

目 次

- 同窓会総会開催案内…………… 1
- 会長あいさつ…………… 2
- 学校法人理事長あいさつ…………… 3
- 学校長あいさつ…………… 4
- 同窓会のこの1年…………… 8
- 同窓生のページ…………… 13
- 学校の近況…………… 19
- 特別寄稿…………… 26
- 平成31年度入試報告…………… 30
- 新入会員を迎えて…………… 32



題字：創立者 額田 晉先生 書

同窓会総会開催案内

日 時 令和元年七月二十一日(日)

受付開始 十一時半

総会開始 十二時

懇親会スタート 十三時

会 場 グランドプリンスホテル新高輪

(地下三階イルレオーネ)

議 案 ・平成三十年度事業報告

・平成三十年度会計報告

・令和元年度事業計画案

・令和元年度予算案

・その他

学校の近況報告

・東邦中学・高等学校入学をとりまく状況

・大学進学状況に関して

・その他

※先生方からご説明を頂きます。

懇親会 総会終了後、懇親会を行います。

会費は、正会員五千円とし平成三十一年

三月卒業の新会員はご招待とさせて頂きま

す。高校卒業4年目までの会員は会費を千

円とさせて頂きます。

なお、会場内での喫煙、未成年者の飲酒

はできません。

☆出欠のハガキは七月十九日(金) 必着。

FAXでの回答はご遠慮下さい。

☆電話 ○四七-四七二-一六〇

新元号「令和」を迎え同窓会「自生人」六十三周年

会務運営を常に振り返り同窓会の更なる飛躍を決意

東邦中・高等学校同窓会「自生人」会長 鮎川 二郎（七期卒・千葉商科大学名誉教授）



はじめに

平成から令和を迎え、いくつもの時代を生き抜いてきた同窓生の皆様におかれましては全国各地のさまざまな分野でご健勝にてお過ごしのことと心からお慶び申し上げます。

本同窓会は、昭和三十年（一九五五年）第一期卒業の年に発足し平成二十八年（二〇一六年）に創立六十周年を迎え、記念事業として校章銘板を母校に寄贈し本館正面に設置しました。本年の第六十五期卒業生は三六一名で同窓生総数は二二九八四となりました。

二〇〇八年（平成二十年）には、額田晋家を継承されている額田均先生（公財）額田医学生物学研究所理事長・東邦大学理事）より母校建学の精神を象徴する額田晋著「自然・生命・人間」（かつて本同窓会より復刻本発行後、毎年法人より全学教職員、学生生徒に配布）の書名から同窓会の呼称として「自生人」の使用許可をいただきました。このことは同窓会にとってはかけがいのない宝の呼称であり、かつ日頃の同窓会活動の

評価の証しともいえることと拝察され大変ありがたいと会員各位と共に心より感謝している次第です。これも偏に同窓会役員、事務局員、関係会員の皆様のご尽力によるものと衷心より感謝と御礼を申し上げます。

現同窓会組織が再編した一九九六年（平成八年九月）当時から、新元号令和元年を迎えるまで同窓会務は極めて順調に運営しておりますが、本年三月末をもって母校教員としてまた同窓会理事として永年にわたり多大なるご尽力をいただいた母校副校長の御喜和先生がご勇退されました。御喜先生には母校にとって、本同窓会にとっても余人をもって代えがたい実績を挙げられ、多くの貢献をされました。今後は御喜先生には引き続き同窓会理事として新しい令和の時代の自生人の更なる飛躍のためにご尽力を賜りますよう同窓会を代表してお願い申し上げます。次第です。

こうした重要かつ意義深い節目を迎え、同窓会自生人はこれまで以上に会務運営を常に振り返り、より飛躍するため真摯に取り組みながら非営利組織で協働するためのあるべきミッションを発揮し、法人、母校、在学生、会員の各位様から評価がいただけるよう理事役員一同は決意いたします。

今後の会務運営組織体制について

前述した通り、現同窓会組織が再編してからこれまで理事会運営上は特段の問題は生じていませんでした。すなわち再編当初からの理事、監事は適正人数で、人柄にも恵まれ、頗る調和のとれた会務が遂行されています。ただし会則においては長年踏襲してきた実績を鑑みて同窓会組織にふさわしい規定の見直し、若手役員の育成等の課題の解決が必要な時期にもなっており、去る四月の理事会で時間をかけて慎重審議し、定例総会において理事会提案事項といたします。

むすび

同窓会「自生人」は、会の名称を決して汚すことのないよう役員一同が一丸となつて会務を通じて会員相互の一層の親睦をはかり、かつ母校発展に寄与し得るために継続的な活動を展開していく所存です。

会員の皆様におかれましては、今後も益々ご健勝にてご活躍の上、定例総会へより積極的に参加いただき会務に協働を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

来る七月二十一日（日）には、令和の最初の自生人総会が東京高輪プリンスホテルで開催いたします。年に一度の総会は、同窓会のミッションが会員相互に伝達される場でもありますので会員各位様には万障お練り合わせの上ご出席くださるようお願い申し上げます。

ご挨拶

学校法人東邦大学 理事長 炭山嘉伸



東邦大学付属東邦中学校・高等学校同窓生の皆様へ、この会報を通し、ご挨拶申し上げます。日ごろ、同窓会会長鮎川二郎先生をはじめ、同窓会の皆様におかれましては、学校法人東邦大学のためにご支援をいただいていることに対し、厚く御礼申し上げます。

本年の新生から、鮎川会長のお計らいで、法人広報誌に六年に亘り連載した私の「東邦大学のルーツをたどる」の冊子版が、入学祝いとして、永続的に寄付していただくことになりました。この「東邦大学のルーツをたどる」は、本学の創立者である額田ご兄弟の建学に懸けた思いと、本学の発展に尽力された足跡をたどり、且つ、建学の精神「自然・生命・人間」の起源について詳しく記述しています。この冊子を読んだ新入生が、本学の歴史をしっかりと理解し、本学への帰属意識を高めてもらえればという願いが、鮎川会長のご配慮にあると思います。冊子から学び、中高の六年間の学生生活が充実したことになることを心から願っています。

さて、学校法人の平成三十年度の事業を振り返りますと、何と云っても、本法人創立九十周年事業の集大成である新大橋病院が、昨年六月グランドオープンしたことです。新病院は、「患者さん第一」をコンセプトに、アメニティの充

実をはかり、且つ、「水と緑に囲まれた都会のオアシス」のような都市型モデルとなる病院として開院しました。この新大橋病院を含め、九年前に亘り、教学環境・医療環境の整備のための大型設備投資を実行して参りました。このことは、本法人の将来の量的・質的向上に貢献することと確信しています。実際、大学では、各種国家試験（医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師）の合格率は、全て全国平均を上回り、入試志願者数も全学を通して十倍以上と好調を維持しています。

また、本年度は「TOHO世界大学ランキング」で、東邦大学が初めてランキングしました。世界には約三万の大学がありますが、八十六の国と地域から選ばれた大学の中、本学は八〇一〜一〇〇〇位にランキングし、国内大学では、七七九大学中二十五位、私立大学六〇四位中九位のグループとなります。「TOHO世界大学ランキング」は、教育、研究、被引用論文、産業界からの収入、国際性の五つの指標から総合順位が決定されます。今回のランキングはたいへん名誉なことであり、本学の教育、研究、及び国際性の質の向上に繋がると言えます。たいへん嬉しく思います。

学校法人東邦大学は、教育・研究・医療を通して、これからも社会貢献し、社会からも高い評価が得られるよう積極的に取り組んでまいります。引き続き、皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

コミュニケーションマーク



東邦大学

このマークは、東邦が大切にしている価値観を「象徴化」したもので、今後の東邦ブランディングの視覚的表現の核となるものです。東邦に流れ続けてきた価値観、これからも大切に引き継ぎ伝えていくべき価値観に学祖の思想「自然・生命・人間」があります。「自然・生命・人間」を象徴する12のアイコンによって構成される本コミュニケーションマークは、2007年4月より導入され、様々なコミュニケーション活動において展開されていきます。



東邦大学 医療センター 大橋病院

ご挨拶

東邦大学付属東邦中学高等学校 校長 松本 琢司



同窓会の皆様方には、日頃より本校の教育活動に深いご理解とご支援を賜りまして、心から感謝申し上げます。

特に、関東大会・全国大会出場の部活動やロボットコンテスト世界大会出場のチームに対して、同窓会アワードという形でご支援いただきました。ありがとうございます。会報の他のページにありますように、お礼の気持ちを込めて、部活動の部員たちが活動報告してくれています。昨年度は前年に引き続き、金井宇宙飛行士関連のイベントに際して、多大なご支援をいただきました。誠にありがとうございます。

また、進路選択に関しては、職業講話や進路ガイダンスの折りに、卒業生の方々には講師としてご協力をいただいております。大変感謝しております。後輩に向けた貴重なお話をありがとうございます。

昨年の総会以降の学校の近況をご紹介します。ご挨拶に代えさせていただきますと思います。

中高入試

中学入試は、従来の前期入試・後期入試に加えて、十二月に推薦入試（自己推薦による第一志望入試）を導入して三年が経過しまし

た。三年目も定員三十名に対して五八一名と多くの応募があり、大変な高倍率となりました。この推薦入試と同日に、はじめて帰国生入試（入試科目：国語・算数・英語、定員は前期を含む）を行い、十一名の入学者がありました。前期入試は六年ぶりに志願者が二五〇〇名を越えました。推薦・帰国生・前期・後期と延べ四回の入試を経て、中学は三〇〇名の定員に対して、三〇六名の入学者がありました。

高校入試の方は、平成二十九年より高校募集を停止したため、一昨年より一般入試は行っておりませんが、今年には四名が入学しました。付属中学からは二九八名が高校に入学しましたので、合計三〇二名で高校一年はスタートしております。

大学入試結果

進路指導部から詳細については報告がありますが、今春の卒業生の進学実績については、おおむね良好でした。現浪合わせた東大合格者は九名と、あと一步のところまで久々の二桁合格のところまで行きました。二年連続で東大に推薦合格者を出したことも特筆すべきことです。医学部医学科の合格者が九十名を超し、一〇〇人に達した昨年に続いて高い実績を維持しました。

国際交流

他校に比べて遅れをとっていた感のある国際交流の面も充実がはかられ、中高生のうちにさまざまな国際交流に関する体験を積み機会を、設置五年を経過した国際交流室を中心に増やしてきております。

本校主催の海外研修は従来の高校一年時のオーストラリア研修は、実施時期を中三に移して三年目を迎え、九十三名が参加しました。このオーストラリア研修には、昨年からサイエンス・コースが加わりました。これはクイーンズランド大学の研究施設や野生動物保護施設での実習、世界自然遺産の探訪、ファームステイなど、数年かけて準備して実現した本校独自の海外研修です。

同じく希望者対象ですが、今年の春休みに中学三年と高校一年のシンガポール研修の三回目を実施しました。これは現地のインターナショナルスクールで寮生活を送りながら、その学校の授業に参加し、すべて英語でさまざまな科目の授業を受けるというプログラムです。大学世界ランキングでアジア一位のシンガポール国立大学を同大の学生に案内してもらったり、陸路で国境越えを体験して隣国マレーシアに入り、世界遺産マラッカを見学したりする機会もありました。

昨年、オーストラリアのブリスベンにあるセント・ピーターズ・ルーサラン（ルーテレン）・カレッジとの姉妹校提携を延長しました。この姉妹校とは、オーストラリア研修の際に交流会を行ったりもしておりますが、スポーツや文化の面でも交流を深めたいと考え、昨年は日本でのロボコン参加者が九名、オーケストラが四十一名来日し、本校でホームステイを受け入れ交流を行いました。特に十二月に来校したオーケストラは終業式の日に全校生徒を前に演奏を披露してくれ

ました。
また、国内にいながらにして国際交流をはかり、英語のプレゼン能力を高め、クリティカル・シンキングを行うプログラムが、八月にハーバード大学から七名の学生・卒業生を本校に招いて、約五十名で実施されました。

東邦スペースイヤーを終えて

東邦中高の平成六年度卒業生の宇宙飛行士金井宣茂さんが、国際宇宙ステーションに滞在することに関連して、一昨年度の一年間は「東邦スペースイヤー」とし、さまざまなイベントを行いました。その総仕上げとして、昨年十一月には市川市（金井さんは市川市立の小学校を卒業）と共同主催で、無事に帰還した金井宇宙飛行士本人も交えて、ミッション報告会を和洋女子大学（市川市）で実施しました。この間、同窓会より多大なるご支援をいただきましたことに、重ねて御礼申し上げます。お陰様で、本校生をはじめ市内・県内の多くの小中高生に、宇宙や科学への興味・関心を広げたり深めたりすることができて、とても喜んでいただくことができました。

在校生の活躍

同窓会アワードをいただいている部活動の活躍については、部員たちの報告に譲るとして、部活動ではないものの目覚ましい活躍を見せた本校生について少し触れます。

昨年度末から今年度にかけて新中三、高二・三年生の六名が、千葉・東京の他校生とサクラ・テンペスタという名前のチームを編成して、FIRSTロボティクス・コンペティション（現在、三十三ヶ国、三七九〇チームが活動）の地区大会（ホノルル開催）に参加しました。そこでチェアマンズ賞という最

高賞を獲得し、四月に行われた世界大会（デトロイト開催）に二年連続で出場を果たしました。これは、単にロボットの製作・操作技術を競うのではなく、人的・経済的支援を得るための取り組み、具体的には資金調達や大型ロボット製作のための作業場所の提供交渉、道具調達などが評価されたものです。また、サイエンスやテクノロジを社会に、特に女性に広げる試みも評価対象になりました。初代代表の女子生徒はこの春に高校を卒業しましたが、後輩たちにこれまでの取り組みが受け継がれていっています。

私は日頃から、在校生やその保護者に対して、机の上の勉強はもちろんのこと、その他にも行事や部活動にも励んで広く学ぶことを強く奨励しています。広く学ぶなかで、幅広い知識・教養、豊かな感性、均衡のとれた心身が培われるものと思うからです。それが広い裾野を形成し、山の頂にあたる将来の高い専門性や倫理性を支える土台となるだろうとも思います。そして、それはAIが活躍するこれからの時代に必要とされる、人間独自の創造力や感性、柔軟な判断力を培うことにもつながるものと思います。

最後になりましたが、卒業生の皆様方の益々のご活躍と同窓会のご発展をお祈り致します。

◆**編集部より**

校長先生の「ご挨拶」の中にある「国際交流」、「東邦スペースイヤー」について、それぞれ企画・運営を主導された先生から「報告」を寄せていただきましたので、次ページに掲載させていただきます。



サクラテンペスタのメンバーによるロボコン世界大会出場報告
(地区大会でチェアマンズ・アワードを受賞)

金井宇宙飛行士ミッション報告会

―国際宇宙ステーションで挑んだ一五八日―

宇宙教育プロジェクト委員会

金井宇宙飛行士の出身小学校、稲荷木小のある市川市と中高時代を過ごした母校である東邦大学付属東邦中学校高等学校では、平成二十九年十二月から国際宇宙ステーション (ISS) に長期滞在中の金井宇宙飛行士を応援するとともに、小学生・中学生・高校生を中心に広く一般の方にも楽しんでいただけるような様々なイベントを開催してきました。

今回、金井宇宙飛行士が長期滞在中から六月に帰還されたことに伴い、国立研究開発法人宇宙航空開発機構 (JAXA) が公募していた「金井宇宙飛行士ミッション報告会」の開催地として選定され、十一月二十五日、市川市の和洋女子大学講堂に、金井さんが卒業された市川市立稲荷木小学校や東邦中高生の生徒、学生やその保護者、宇宙に興味関心のある方など一八〇〇名の方にご来場いただき開催されました。

一部はミッション報告会で金井宇宙飛行士によるミッション報告と質問コーナー。国際宇宙ステーション (ISS) 長期滞在中で実際に行った活動の様子を写真や映像により紹介し後半は会場からの質問に答える。

二部は、学ぼう！宇宙に浮かぶ実験室「きぼう」の実験。金井宇宙飛行士が自ら担当した科学実験の話をもとに、金井宇宙飛行士と JAXA 職員がその様子を紹介しながら宇宙実験の意義や面白さを紹介。

三部は、ココでしか聞けない！宇宙のお仕

事トークショーで金井宇宙飛行士の 158 日長期滞在中を地上から支えた女房役のフライトディレクター (運用管制官) たち担当と金井宇宙飛行士がココでしか聞けない話を交えながら、ミッションを振り返る。

以上の三部構成で報告会が行われました。市川副市長・和洋学園学長のオープニング挨拶で始まり、金井さんが会場後方に現れると会場内は大きな拍手に包まれ、中央通路を歩いて子どもたちと握手をしながらステージに登場すると会場はさらに盛り上がり、報告会がスタートされました。

金井宇宙飛行士は冒頭、「宇宙を身近に感じてもらえる嬉しい」と話し、滞在中のエピソードを紹介。国際宇宙ステーションの大きさから長期滞在中のミッションについて数々の実験についてわかりやすく説明してくれました。質問タイムでは、子どもから大人までたくさん質問に一つ一つ丁寧に時間いっぱいまで笑顔で答えてくれました。

最後は、閉会の挨拶を炭山理事長がなされ、盛況の中二時間三十分の報告会を終了することができました。

今回、本校中高生のボランティアスタッフが六十名が朝早くから場外誘導・会場誘導・受付作業と活躍してくれました。そんな生徒達に金井さんは報告会前の忙しい時間に受付の場所に顔を出してくださり、生徒に気さくに声をかけ、労をねぎらうとともに生徒と一緒に写真撮影に応じ、生徒一人一人に記念品を手渡してくれるというサプライズがあり、その心遣いと実直な人柄に生徒たちは感動する一幕がありました。ミッション報告会は金井さんの人柄を表す、とても

温かく心のこもった来場者の記憶に残る素晴らしい報告会であったと思います。

最後になりますが、金井宇宙飛行士応援プロジェクトの後援をいただいている法人本部・同窓会からは、炭山理事長、鮎川同窓会長はじめ多くの方にお越しいただくことに感謝し、会の運営にご協力いただいたことに感謝し、お礼申し上げます。
(文責 柴田雄二)



国際交流の取り組みについて

国際交流室

平素より同窓会にはご協力、ご尽力を賜り、誠にありがとうございます。同窓会アワードは、国際交流活動のサポート費用等に充てさせていただきます。

国際交流室が設立され五年目の活動報告です。二〇一八年度は六名の室員で、海外からの留学生や来校者の受け入れ、海外研修の運営などにあたりました。

二〇一八年度は海外から本校への受け入れが多く、六月には習志野市の姉妹都市アメリカ合衆国アラバマ州タスカルーサ市の高校生二十名、八月にはHarvard大学の学生七名、十月には姉妹校St.Peters Lutheran College (以下SPLC)の高校生七名と先生二名がWorld Robot Summit参加に合せて来校、十二月には恒例となったSPLCのオーケストラ部四十一名と先生四名が本校オーケストラ部・同好会との交流のため来校しました。

二〇一八年度から新たなプログラムが二つ加わりました。一つ目は先述のHarvard大学の学生来校と関連して、このSLICE(Summer Life Changing Experience)です。Harvard大学の学生や卒業生をメンター(講師)とし、クリティカル・シンキングと英語力向上を目的とするプログラムです。二〇一七年はモニターとして参加しましたが二〇一八年からは正式なプログラムとして正式に採用し、中学三年生から高校二年生まで四十一名が参加しました。もう一つは自然科学を中心に学ぶオーストラリア

研修サイエンスコースです。クイーンズランド大学監修の海洋実習や世界遺産スプリングブルック国立公園でゴンドワナ多雨林を学ぶなど充実の高大連携プログラムです。

例年実施のプログラムも人気を博しています。オーストラリア研修クロスカルチャーコース(以前は語学研修と呼んでいましたが、比較文化を中心に学ぶことから名称変更しました)は中学三年生九十三名が参加しました。二〇一九年八月は一四一名の生徒が参加予定となっています。シンガポール研修は研修先の学校を変更しました。ガバメントスクールのDevi Secondary SchoolとインターナショナルスクールのHwa Chong International Schoolです。どちらも地元では名を馳せる名門校で、実際に研修に参加した生徒からは、英語で行われる授業の充実ぶりに満足したとの声が聞こえてきました。二〇一八年度は習志野市の姉妹都市アメリカ・アラバマ州タスカルーサ市交流の年に当たり、先述の本校来校と、夏休みには習志野市からの高校生派遣団に本校高一生七名が参加し渡米、貴重な経験を得ることができました。

SPLCオーケストラ部来校のことを前述しましたが、国際交流室は「部活動を通しての国際交流」の支援もミッションの一つとらえています。二〇一八年三月には中学サッカー部による姉妹校SPLCでの親善交流を実現。現在、中高オーケストラの二〇二〇年八月SPLC訪問を目指し、オーケストラ部関係者とともに準備を進めています。

松本校長も常にお話されているように、リベラルアーツ、広い教養を身につけること

が東邦の大切にする学びの姿勢です。国際交流もその一翼を担えるようになるほどの発展を遂げたのではないかと思います。これもひとえに同窓会のみなさまのご協力があつてのものだと感謝しております。今後ともご尽力賜りますようお願い申し上げます。なお、二〇一九年度は坂井眞室長を筆頭とする七名体制で国際交流室は活動します。(文責 長瀬明雄)



サッカー交流



オーストラリア研修



SPLC オーケストラ来校



シンガポール研修



SLICE

同窓会のこの一年

同窓会副会長 渡 邊 和 彦 (二十期生 歯科医院経営)

同窓会活動のこの一年(平成三十年七月〜令和元年六月)を簡単に報告させていただきます。

同窓会会報「ならしの」第三十八号の発行

例年通り、定例総会の開催に合わせ同窓会会報「ならしの」第三十八号を発行致しました。

同窓会総会・懇親会

平成三十年七月十日、東武ホテルレバント東京にて開催いたしました。

総会では議長に選出された五十畑昭彦理事(三十二期生)の明快な進行により、定例議事(事業報告、決算報告、事業計画案、予算案)のすべてが承認されました。定例議案承認後には複数の会員から同窓会活動の充実・発展に向けての発言があり、活発な意見交換も実現し、盛会のうちに会は終了しました。引き続き行われた懇親会には学校法人東邦大学理事長炭山嘉伸先生や母校の先生方をお招きし、総会に参加できなかった新会員も多数加わりました。世代を超えた親睦の場として、情報交換の場として有意義な集いが実現できたと思います。



母校卒業式に向けての取り組み

一．卒業記念品の贈呈

卒業を祝し、例年通り、ペン型印鑑と「東邦グッズの布バッグ」を卒業生全員に贈呈しました。

二．臨時会報の発行

今年度も新入会員に対して、「臨時会報」を作成・配布致しました。会報には、「同窓会組織・規約の説明、高校卒業生への祝詞と激励などを



盛り込みました。

三．同窓会入会式

三月一日（卒業式前日）、母校体育館で同窓会入会式が行われ、同窓会執行部を代表して御喜和理事（十八期生 母校副校長）が歓迎の挨拶をされました。

四．卒業式への参加

三月二日、母校体育館で卒業式（卒業生三六一名）が挙行され、私、渡邊和彦が同窓会

を代表して、来賓祝辞を述べました。

会報「ならしの」第三十九号発行

（令和元年六月十四日）

母校教育活動への支援

一．同窓会アウオード

（母校生徒への報奨制度）

規定に従い、次の部活に報奨金を贈呈しました。（学校の近況のページに関連記事があります。）
 ● 中学校スキー部（関東大会出場 全国大会出場）
 ● 高校スキー部（関東大会出場 全国大会出場）
 ※関東大会において、男子リレーで優勝

- 高校硬式テニス部（関東大会出場）
- 囲碁（有志）（全国大会出場）

二．国際交流教育支援

母校では、国際交流に関する教育の推進を目的として平成二十六年度に国際交流室が設置されました。母校の取り組みの一助となることを願い、昨年度に続き支援金を贈呈しました。（七ページに国際交流室からの報告記事が掲載されています。）

三．金井宇宙飛行士プロジェクトへの支援

昨年度に引き続き、支援金として一〇〇万円を寄付。「打上げイベント」、「リアルタイム交信イベント」等には同窓会役員も臨席いたしました。

同窓会事務局からのお知らせ

一・同窓会報の発行・配布に関して

今後、同窓会報は、原則として同窓会ホームページで閲覧していただくこととなります。このことに伴いまして、ホームページ閲覧用のIDとパスワードをお知らせします。

URL <http://www.shiseinin.org/>

E-mail shiseinin@yahoo.co.jp

今後、引き続き、同窓会報の送付を希望される方は、同封の返信はがきでご回答をお願いします。

二・同窓会の各学年幹事について

同窓会の各学年幹事に自ら立候補を希望される方、または推薦者がいらっしゃいましたら、同窓会事務局まで文書またはメールでご連絡ください。

幹事の職務は、同窓会会員相互の交流促進、同窓会本部と各学年会員との連絡・交流等です。

三・同窓会ホームページと新サービスシステムについて

同窓会本部では、同窓会活動充実のための取り組みの一環として、標記の件につきまして準備を進めて参りました。当会報十一ページ、十二ページに詳しい説明がございますので、ご覧ください。なお、不明な点等ございましたら、同窓会事務局にお問い合わせください。

同窓会活動への寄付協力をお願い

平成二十一年度の同窓会総会で決定しました通り、二十二年度より会員の皆様に寄付の協力

をお願いしています。要領は左記の通りです。ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

記

・寄付金は、一口二、〇〇〇円、二口以上とする。
 ・振込先 千葉銀行 船橋支店 店番号015
 普通口座 3353747
 口座名 東邦大学付属東邦中学校・高等学校同窓会

（トウホウダイガクフゾクトウホ
 ウチユウガッコウ）

※寄付協力は会員の自由意志によるものです。ご質問、ご意見などございましたら、同窓会事務局に連絡してください。なお、二十九期の和泉玲子様には毎年ご寄付をいただいていることをこの場を借りて申し添えます。

現同窓会役員の紹介

鮎川 二郎	七 期	会長	大学名誉教授
渡邊 和彦	二十期	副会長	
渡邊 学	三十一期	副会長	歯科医師、歯科医院経営
椋原 茂樹	八 期	理事	医師、大学教授
能勢 英雄	十四期	理事	元会社役員
岡田久仁子	十五期	理事	元地方公務員
鈴木 実	十八期	理事	会社役員、元母校教諭
御喜 和	十八期	理事	会社役員、元地方公務員
北川 太郎	三十一期	理事	前母校副校長

薬剤師、薬局経営

同窓会事務局より

事務局担当理事 岡田 隆治
 (36期生 母校教員)

- (1) パート事務員の方の同窓会事務室での執務時間
 水曜日 9:30～14:30 土曜日 9:30～14:30
 同窓会へのお問い合わせは、なるべくこの時間帯にお願いします
 直通電話 047-472-1160 *FAX 番号は電話番号と同じです
- (2) 緊急の連絡に関して
 上記の執務時間以外は、同窓会室への電話連絡はできません
 緊急のお問い合わせは学校代表 047-472-8191 にお電話いただき、
 「同窓会関係教員」を呼び出してください
- (3) ホームページ等に関して
 URL <http://www.shiseinin.org/> E-mail shiseinin@yahoo.co.jp

五十畑昭彦	三十一期	理事	弁護士、会社役員
三矢 宏	三十二期	理事	会社経営
岡田 隆治	三十六期	理事	母校教諭
土田 雄大	四十六期	理事	母校教諭
藤内 圭一	十八期	監事	
田浦 智子	十九期	監事	歯科医師、歯科医院経営
牧 栄	二十期	監事	薬剤師
鍼灸師、鍼灸院経営			

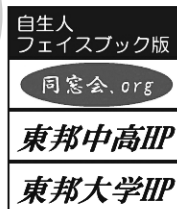
ホームページのご案内

**** 個人情報をお客様自身で安全に管理できるホームページ****

会員の皆さまからご提供頂いている個人情報を、セキュリティ万全のサーバーで一元管理。
会員自身で内容の確認と変更ができます。

URL : <http://www.shiseinin.org/>

同窓会
ホームページ



建学の精神
「自然・生命・人間」
人生は神の恵みによるものである。...
自然・生命・人間は、神の恵みによるものである。...
人生は神の恵みによるものである。...
自然・生命・人間は、神の恵みによるものである。...



自生人: 東邦大学付属東邦中学・高等学校同窓会

更新情報: 2013.10.19 shiseinin.orgのドメイン取得に伴い、サーバーを移転しました。

自然 生命 人間

自生人(しせいこん)は同窓会の愛称です。
自然 生命 人間
パスワードは同窓会報に掲載しております。
自生人専用サイト入口

ユーザー管理用サイト

個人会員専用サイト
会員ID・パスワードが必須です
・各種登録情報更新(住所変更)
・各種お申込み
会員専用サイトです

自生人関係者以外の方の立ち入りは禁止しています。
クリックして入場してください。

パスワードは同窓会報に掲載してあります。(毎年度変更予定)
よりよい情報を自生人にお伝えするためにセキュリティを強化しました。
専用サイトでは、同窓会報の他、記念誌の掲載情報や大学の広報など
自生人ならではのネットワークを駆使したリアルな情報を掲載してあります。
もちろん今度も、各期の同期会やクラブの記念行事、思辨や同窓生の情報など
幅広くご紹介していく予定です。ご期待ください。

クリックして入場してください。

パスワードは同窓会報に掲載してあります。
(各自変更が可能です)
連絡先の登録がご自分で変更が可能です。
ご活用ください。

自生人専用サイト

ID:shiseinin
PW:toho2013

会員専用サイト

次頁を参考に
ログインしてください

個人会員専用サイトのログイン・個人情報の変更

- 次頁を参考にログインして下さい。
- ログインしたら、「マイページ」にてご自身の個人情報のご確認をよろしくお願ひします。
- 今後、登録情報に変更がございましたら、こちらのマイページで変更して下さい。



サーバーへの侵入検知、ファイアウォールを設置し、コンピューターウイルス、悪意ある侵入者からの攻撃へ対策しています。
またマイページ内の通信はSSLを使用し、情報を暗号化して通信することで、データの盗聴や改ざん、なりすまし等を防いでいます。



同窓生のページ

『還暦から古希への折り返し同窓会』

を終えて

十七期同窓会実行委員会

一、「その前」

十七期同窓会を一年後に控えた夏の宵。会場の下見を兼ねて何人かの同期が集まった。

そのメンバーは笹岡誠・鈴木雅夫・窪岡優裕・田谷久雄・石川政之・清水敏彦・日暮英二・砂川豊・秋本幸男の各君の面々である。

いろいろな意見が飛び交った。「会場のキャパは大丈夫か?」「このコース料理をブユッフエ形式にしたらどうだ!」「もちろん、フリードリンクだろ?」「この会費で何もかも賄えるのかよ?」「役割分担はもう決めたのか?」

三度に渡る通信費や送料、パーティー代、記念DVD代、その他の諸経費を八〇〇〇円の会費で回せるのが大きな課題であった。

そのほとんどが四十七年ぶりの再会であった。旧クラスもシャッフルだったが、すぐ昔に戻った。飲んだ飲んだ!話は尽きない。

思えばこれまでも、東邦時代に所属していた部活動のOB会や女子会、今なお親交のある仲よしグループの飲み会で、『十七期同窓会をやるう!』の話題で盛り上がって来た。

まさにその一つ一つが『同窓会そのもの』であった。また、立ち上げから共に歩んでくれた

松崎美江子さんや岩田章浩君の理解と協力が大きな支えとなった。多くの同期に声を掛けてくれた卯木千恵さんにも感謝・感謝である。



会場下見



考古学部 OB 会

その年の秋、これまで同窓会開催に向けて大いに尽力頂いた工藤真大君が急逝の訃報が舞いこんだ。痛根の極みである。涙が溢れた。

十月末に予定されていた『ちよっと早めの忘年会兼準備会』は、『彼を偲ぶ会』になってしまった。実行委員会の立ちあげからの良き相談相手であった細川淳子さんや、轡田治彦君、関谷憲明君、山田まゆみさん、大川千鶴子さんも駆けつけてくれた。

すでに、三十名以上の同期が亡くなっており、連絡先不明の方もまだ多い。

反省点も多くある。それでも、何とか実行委員会メンバーの役割分担も決まり、一〇〇名近い参加者の『その日』を迎えることになった。



工藤真大君を偲ぶ会



会場キャパの関係で2回に分けて撮影

二、『その日』

その日、記念撮影のあと、十七期同窓会のオープニングは、ビートルズの曲『イマジン』が流れるプロジェクションスクリーンで始まった。卒業アルバムから選んだフォトが次々流れる。『テレるが今の俺だ』『お前、面影あるな！』懐かしい。当時が蘇ってくる。

卒業以来、四十八年。大半が今日、再会となった。今となつては、『顔と名前』は一致しないものだが、ネームスラップも顔写真も旧姓、当時のままでありがたい。

実行委員メンバー紹介・一言のあと、我々の後輩で十八期の御喜和君と鈴木実君に東邦同窓会役員として、来賓ご挨拶と乾杯のご発声を頂いた。セレモニーはパーティーへ進んだ。BGMは当時のブラスバンド部長・武田聡君の生バンドで最高だ。

「宴も半ば」今もなお、ご健在で、この日、ご参加頂けた恩師の先生方にもご挨拶頂いた。磯邊浩先生（山武市）、押田節子先生（船橋市）、板橋英子先生（新潟県）、三任泰之先生（沖縄県）、泉東作先生・泉靖江先生ご夫妻（伊西市）である。板橋英子先生（新潟県）は急用で中座された。皆お元気で、かくしゃくとされていた。感謝！

『宴もたけなわ』。旧ラゲビー部の辻田明君の音頭とりで、『東邦校歌』大合唱。そして、『三本締め』で、一次会がお開きとなった。

三、『その後』

さて、今回のコンセプトは『再会の場づくり』『きっかけづくり』であった。

これまで、ずっと疎遠だった旧友との『再会』を果たし、『これから、どう関わっていくか』『共にどう過していくか』その一助となれば幸



武田 BAND



タイムスリップスクリーン



いだ。市川由貴子さんのとりなしで『記念DVD』も完成した。

同窓会をきっかけに、様々な動きが出て来た。九月八日には、同窓会を盛り上げてくれた武田聡君がバンドマスターを務めるJAZZバンドの定期コンサートが開かれた。口コミでお互い誘い合い、男女同期が集まった。

第一部がグレンミラー、第二部がプレスリー



恩師の先生方



中締め



校歌大合唱



のメドレーの本格的なJAZZコンサートであった。『古き良き時代の郷愁』に魅了され、更に多くの友に声掛けをし、『年に一回は集まる場』とすることに至った。むろん、興味のある人。時間のある人がである。



JAZZ コンサートのあとで



テニス部その後

四、『これから』

次回開催は皆が古希を迎えたら

今後も『何かと口実をつけ』て、お互いの生存確認も兼ね、たまには同期が集える『場づくり』を進めて行きたい。

次の十七期同窓会の開催は、『全員が古希を迎えてから』だ。五年後、十年後になるかもしれないが、お互い健康でいよう！そして、もっと多くの同期に声を掛けていこう！

では、七十歳代に相応しい静かなる語らいの場で再会しよう。

その後のティータイムは大いに盛り上がった。九月八日には、旧テニス部のメンバーが集まった。同窓会時だけでは語り尽くせなかった同期だけの懇親会である。六月二十四日に参加出来なかったメンバーも加わることが出来た。

その後、幾つかの女子会、旧部活のOB会やグループから実行委員会にもお誘いのご連絡を頂くようになった。当時、ボクシングで『無敵の雄』だった河島教明君の支えには頭が下がる思いである。

卒業三十周年記念同窓会
開催のご報告

三十四期同窓会幹事一同

二〇一七年十二月三日、私たち三十四期卒業三十周年記念同窓会を翌年開催するため、まずは幹事として大要人（高三且）が昨今流行りの SNS であるフェイスブックにて幹事募集を呼びかけました。

約一年前からの準備開始となり応募があるか懸念もありましたが、日程が決定する前から当日のサポートに応募してくれた人もいて、初動としてのフェイスブックの活用は効果的であったと思います。すぐその後、松峰啓真（高三且）と藤村智子（高三A）が幹事として加わり、三人で主に前準備を担当することにしました。実は、幹事三人ともフルタイムで勤務しており、日中は自分の仕事があります。また居住地域もバラバラ（福岡、東京、香港）で、頻繁に会うことは不可能でした。そのため、同窓会開催をいくつかある請負業者へ外注することも検討しましたが、それほど抑えた予算ではないこと、名簿を渡さなければいけないこと、また自分たちで作り上げた方がより記念となるだろうとの判断で、頑張って自分たちで実行することになりました。

まずは大重の発案で、早急に会場を探しました。同時に、フェイスブックの掲示板で皆に開催場所と時期をざっくりと打診したところ、二〇一八年秋ごろ東京近辺での開催の同意が多かったため、その時期と場所での空室状況確認を頭に入れて準備を始めました。

インターネットで検索して、一五〇人くらい集まれそうなホテルや会議場をピックアップし、直にメールや電話で連絡を取り、予約

可能な日時や予算などを確認していきました。実は一〇〇軒以上連絡してみたのですが、約一年後の日程にも関わらず一〇〇人以上収容できる会場はほとんどが予約済みで、場所決めが最初で最大の難関となりました。それでもいくつか候補を絞り、改めて日付と場所をフェイスブックの投票機能を使って多数決を取った結果、今回お世話になった東京の芝パークホテルで十一月十日（土）の開催と決まったのです。

次に幹事内で予算について話し合いましたが、出来るだけ多くの人に来てもらいたいから切りのいい金額でやってみよう、出席も当日まで受け付けよう、と決



30年ぶりに先生方のお話へ耳を傾ける



全員一体となった記念撮影

めました。また、会当日に何をしようか考えたところ、卒業アルバム写真を流そう、記念品を配ろう、恩師の先生方に出来るだけ出席していただく、歓談の時間を多くとろう、などのアイデアがまとまってきました。この段階ではブレインストーミングのように、ただそれぞれ頭の浮かんだものをそのまま毎日フェイスブックのメッセージ機能を使って出し合いました。次に幹事三人でことん話し合って固めていきました。私たちの世代は、若いころからコンピュータを仕事で使っておりある程度インターネットとスマホが使いこなせる年代だったので、非常に幸運だったと思います。

やりたいことと、日程が決まると、三人でやるべきことのスケジュールを立てました。フェイスブックだけでなく、葉書での呼びかけや先生方へのお声がけ等もあるので、ホテル側と調整しつつ、いつまでに人数を確定して料理の選定をするか、記念品の発注はいつまでにすれば当日受け取れるか、当日サポートの同期生たちへいつまでに連絡するか等、詳細と順番を考えたつづき期限を決めていきました。期限を決めてみると、手元に残るもの、名入れができるもの、運びやすいように小さめのもの、といった記念品の条件も固まっていきました。インターネットを活用して記念品業者と記念品候補を探し、見積もりを取って選定していきました。また、連絡方法の低予算化の手段として、出席人数を予測し予算や参加費を決定するため、フェイスブックのアンケート機能を活用しました。そして同期生全員への出欠連絡葉書に替え、出欠や会の詳細などもフェイスブックで公開しました。ただお伝えしたいのですが、私たちの同期ではフェイスブックなどSNSで連絡できない同期生のうち、前同窓会幹事である猪狩恭子さん

の力も借りて一人一人へ葉書を出し、結果的に十人から返事をいただきました。これを多いとみるか少ないとみるかはそれぞれだと思いますが、幹事としては一人でも多くの同期に開催の旨を連絡したかったので、この従来の連絡方法もなかなか有効であったと思います。そして忘れてはならないのは、私たちに直接教科を教えてください、まだ母校に在任されている先生方のご助力です。前準備のミーティングで御喜先生と山岸先生にお会いし、また松本校長先生にも校舎にてお声掛けいただき、同窓会準備に向けての貴重なご助言を頂きました。そして中学で同期生の担任をされていた寺山先生は他校でご活躍しており、幹事訪問の際、お時間を拝借出来ました。諸先生方には在校中のみならず、卒業後も私たち幹事をご指導ご鞭撻いただき、本当に感謝しております。

その後会場であるホテルとの話し合いで、メニューの調整や人数確認の期限が決められ、それに合わせて参加予定者に事前振込をお願いすることにしました。幹事としては多くの人の参加を願っていたため、当日飛び入り参加も受け入れる予定ではありましたが、記念品準備で参加人数をかなりの精度で決定する必要があるため、また料理手配のため確定人数をホテル側に事前連絡する必要があったので、公式には事前振込とし、当日にも受付可能という柔軟性を持たせる対応にしました。何度かホテルへも足を運び、開催一か月前には会場の下見と担当者への直接交渉を行いました。幹事三人の顔合わせは、前日準備として行いました。東京の松峰宅に前泊して、進行表、テーブルプラン、台本など読み合わせをし、リハーサルをして翌日に備えました。三人とも約一年間メッセージングにてリアルタイムで話し合っていたためか、意外とス

ムーズに意思疎通が行えました。一方当日の準備サポートの同期生たちには早めに会場に来てもらって柔軟に対応してもらったこととし、結局青木牧子さん、木下香さん、古宇田圭子さん、小久保太郎君、丹波充史君、徳田光宏君、野木桂さん、藤井智恵子さん、船山正君、由田理恵さんには先生方の接遇と受付を、鳥越一生君はカメラマンとしてそれぞれ協力してもらいました。

さていよいよ同窓会開催当日、海外はイギリス、カナダ、香港など、国内は北海道、長野、愛知、福岡から、恩師を含め一三〇名を超える方々に集まっていたいただきました。一次会では司会二人が東邦らしく医師と看護師の衣装で進行を務めました。

衣装着用の司会二人は実際目立ち、お互いを探すことが非常に容易で、スムーズな会の進行に役立ちました。オープニングの卒業アルバム写真撮影から、先生方の面白く懐かしいお話、海外組のインタビュなどを交え、歓談の時間に流した思い出のBGMに踊りだした同期生も出て、大笑いが出た記念写真撮影をささみ、歓談が主の二次会を含め三時間が、あつという間に楽しく過ぎていきました。おまけに、正直なところ準備段階では赤字覚悟だった幹事会でしたが、収支報告では次回の同窓会へわずかながら繰越金を出すことが出来、望外の結果となりました。最後に繰り返しますが、ホテルスタッフの方々と同窓会準備に関わった同期生の皆さん、わざわざお越し頂いた先生方、そして当日の参加者の皆さん、おかげさまで無事に同窓会が開催でき、幹事一同心から感謝しております。「それでは皆さん、またお会いしましょう！」

(幹事会敬称略・名前は卒業当時)

「東邦時代」という財産

三十五期生 陶 そ ひ

今年は平成から令和となり、今年は二つの時代をまたぐ、記念すべき年となりました。とはいえ、現時点でまだ「令和元年」と記入する書類に遭遇していないこともあり、なんとなくまだ実感を伴っておりません。

元号といえば、私が高校三年生のときに昭和が終わり、平成が始まりました。中学校・高等学校を卒業して、今年でちょうど三十年になるので、勉強はそれなりにやりつつ、毎日友人たちと大声で笑ったり、毎日校舎内を駆け回ったりしております。今にして思えば、ずいぶん先生がたにご迷惑をおかけしたなあ、と思います。

学生時代になりたかったのは「博物館学芸員」ですが、大学などで学んでいくうちに残念ながら求人が少ないことを実感し、大学で博物館学芸員資格をとりつつも断念しました。現在、広告代理店に勤務しており、マーケティング企画担当としてクライアントの新商品開発のお手伝いや広告作成のお手伝いや、母校である大学（残念ながら東邦大学ではありませんが）の広報戦略の提案などをしております。

卒業後も東邦とのかかわりは続いており、今でも同じ部活の友人とは定期的に連絡をとり、旅行へ行ったり、食事会をしたり、今でも仲良くさせていただいております。中でも高校で所属していた考古学研究会の結びつきは強いです。顧問をしてくださった山岸良二先生はすでに定年を迎えていらっしやいますが、あのパワフルかつアグレッシブな行動力は今も衰え

ることなく、お会いするたびに敬服いたしました。山岸先生はNHKラジオ講座や民放テレビのゴールデン番組をはじめ、いろいろな番組にご出演です。特にテレビは全国放送ですから、お茶の間で学校の名前とともに山岸先生のお姿をご覧になられた方は多いでしょう。山岸先生の近況を伺いつつ、年に一〜二回は部活のメンバーで集まって、食事などをしています。

そして、ここ数年なのですが、部活やクラスで一緒ではなかった東邦の同期たちと連絡を持ち、あつまることが多くなりました。

ここで重要なツールとなったのが、「SNS」です。SNS、つまり「ソーシャル・ネットワークキング・サービス」の本質である「情報の発信と共有、拡散」が有効活用されたわけです。SNSは、これを悪用し、未成年を巻き込んだ事件などにより、「よくないもの」という印象も少なくないでしょう。しかし今更ではあります、SNSほど同窓会のツールとして便利なものはありません。もし学生の頃に「同窓会をやるう」となったら・・・携帯もメールもない時代です。まずは名簿を片手に黒電話のダイヤルを回して、でも「電話をするのは二十一時まで」、だったり、電話がダメなら手紙や往復はがきを出して・・・と非常に手間と時間と気力とコストのいるものでした。今では個人情報保護の観点から、名簿そのものがなくなっています。世の中の状況を考えると、仕方ないことです。さてSNSですが、主に利用しているのはフェイスブックです。自分の出身地や出身学校、勤務先などを任意で入力することで、フェイスブックに情報を登録している同級生の存在を知り、二十数年ぶりに東邦の同期生たちと、再びつながることができました。そんなわけで、フェイスブック上でよびかけてくれた同

期のもと、適当に集まって、気の置けない食事会などを行っています。

専攻が絞られることで、ある程度卒業後の進路が見える大学の同じゼミ仲間とは異なり、東邦の同期生の進路は、予想外でとてもバラエティに富んでいます。公務員、エンジニア、販売、自営業、医師、IT系、教師などなど。話を聞くと、これがまた非常に面白い！自分とは全く違う業界の話聞くのは、非常に刺激的です。自分の業務やクライアント情報に集中すると、どうしても「保守的」になってしまう傾向があります。しかし友人たちの話は、新しい視点や情報をたくさんもたらしてくれます。業務上の行き詰まりが解消したとか、お給料が飛躍的にアップした、とまではいきませんが、利害関係のない、自分と異なる視点での物事の味方や意見を聞くことで、大きな刺激をうけました。何より大切な友人たちと会話したり笑ったりすることで、「スッキリ」する効果が大きいです。気持ちの上で、大きな助けとなります。

多感な十代を、同じ学び舎で過ごした友人たちとは、「東邦時代」という共通の思い出があります。たくさんの方の印象深い先生の授業、修学旅行、習志館、学校の怪談、大久保通りなど、すべてが大切なものです。現役の東邦生のみならずには、今を、学生生活を思いっきり楽しんでいただきたいと思います。人生の六年間という長い時間を共にした思い出の共有者としてのご縁を、今後も大切にしていきたいと思っております。



学校の近況

一、在籍数(令和元年五月一日現在)

《中 学》

	第1学年	第2学年	第3学年	計
男子	187名	186名	186名	559名
女子	119名	157名	138名	414名
合計	306名	343名	324名	973名
学級数	8	9	8	25

《高 校》

	第1学年	第2学年	第3学年	計
男子	172名	156名	199名	527名
女子	130名	121名	119名	370名
合計	302名	277名	318名	897名
学級数	8	9	10	27

二、令和元年度 主な学校行事の日程

体育祭(中学) 十月五日(土)

九時から一般公開します。

競技大会(高校) 六月五日(水)・六月六日(木)

文化祭「银杏祭」(中高合同)

九月十四日(土)・九月十五日(日)

一般公開は両日とも九時からです。

入学試験

中学校

推薦……………令和 元 年十二月 一日

帰国生(英語選抜型)……………令和 元 年十二月 一日

前期……………令和 二 年一月 二十一日

後期……………令和 二 年二月 三日

高校

帰国生選抜……………令和 二 年一月 十八日

三、部活動の活躍

(平成三十年四月～三十一年三月)

※県大会レベル以上を掲載。個人競技については上位入賞者および関東大会以上の出場者は氏名を記載。

中 学

●ハンドボール部

平成30年度第36回浮谷杯千葉県中学校春季ハンドボール大会

男子・5位 女子・ベスト16

平成30年度第72回千葉県中学校総合体育大会ハンドボールの部

男子・3位 女子・ベスト8

平成30年度第36回千葉県中学校新人ハンドボール大会

男子・ベスト8 女子・ベスト16

読売旗争奪中学生ハンドボール大会(関東大会)

男子出場

平成30年度第30回千葉県中学校1年生ハンドボール大会

男子・3位 女子・3位

第37回千葉県中学生テニス選手権大会

●硬式テニス部

第37回千葉県中学生テニス選手権大会

●卓球部

男子ダブルス ベスト16

平成30年度千葉県中学校総合体育大会学校対抗の部 男子・第3位

平成30年度千葉県中学校新人体育大会学校対抗の部

男子・ベスト4 女子・第2位

平成30年度関東中学校新人テニス選手権大会

学校対抗の部 女子出場

平成30年度南関東私立中学校テニス大会

学校対抗の部 男子・女子出場

第72回千葉県中学校総合体育大会

女子ダブルス ベスト16

牛嶋律子(中学3A)・清水千尋(中学3A)

第10回千葉県私立中学校卓球大会

女子団体 準優勝

第3回 千葉県私立中学校剣道大会

女子団体 第三位

第31回 千葉県中学校新人剣道大会

男子団体 出場

女子団体 出場

男子個人 2B金子 修 出場

女子個人 2D澤井佳織 出場

平成30年度 千葉県中学校水泳競技大会

兼 第58回全国中学校水泳競技大会予選会

兼 第42回関東中学校水泳競技大会予選会

男子総合3位

男子400mフリーリレー

第3位 3分53秒89

(3C山口将太郎・1E岡留大和・2A伊藤一哉・2D藤田勇燈)

男子400mメドレーリレー

第3位 4分15秒11

(2H藤田勇燈・1E岡留大和・3C山口将太郎・2A伊藤一哉)

3C山口将太郎・2A伊藤一哉

男子100m平泳ぎ

第3位 1分07秒18

1E岡留大和

男子200m平泳ぎ

第2位 2分24秒20

1E岡留大和

全国標準記録突破・全国出場権獲得

男子100mバタフライ

第1位 57秒51

3C山口将太郎

全国標準記録突破・全国出場権獲得

女子400mメドレーリレー

第10位 5分04秒14

(3G長谷川美唯・3A日高真央)

- 陸上競技部
 - 第3日鈴木ひかり・3E森本遥香
 - 第72回千葉県中学校総合体育大会
 - 水泳競技大会
 - 男子200m自由形
 - 第8位 2分03秒28 3C山口将太郎
 - 男子100m平泳ぎ
 - 第2位 1分06秒91 1E岡留大和
 - 男子200m平泳ぎ
 - 第1位 2分22秒31 1E岡留大和
 - 男子100mバタフライ
 - 第1位 57秒40 3C山口将太郎
 - 第58回全国中学校水泳競技大会
 - 男子400mメドレーリレー
 - 第10位 4分09秒68
 - (2H藤田勇燈・1E岡留大和・3C山口将太郎・2A伊藤一哉)
 - 男子200m平泳ぎ
 - 第16位 2分21秒83 1E岡留大和
 - 男子100mバタフライ
 - 第9位 57秒25 3C山口将太郎
 - 平成30年度 千葉県中学校新人体育大会 水泳競技大会
 - 男子総合2位
 - 男子200mフリーリレー
 - 第2位 1分47秒44
 - (2H藤田勇燈・2A伊藤一哉・1E岡留大和・2C金子剛)
 - 男子200mメドレーリレー
 - 第2位 2分00秒11
 - (2F小野塚唯斗・1E岡留大和・2H藤田勇燈・2A伊藤一哉)
 - 男子50m背泳ぎ
 - 第7位 31秒13 2H藤田勇燈
 - 男子50m平泳ぎ
 - 第1位 31秒52 1E岡留大和
 - 男子100m平泳ぎ
 - 第2位 1分08秒43 1E岡留大和
 - 男子50mバタフライ
 - 第6位 28秒33 2H藤田勇燈
 - 第47回 千葉県中学校新人体育大会 サッカー競技
 - 準優勝
 - 第10回 首都圏私立中学校チャンピオンズカップ
 - 準優勝
 - 第64回全日本通信陸上競技大会 千葉県大会
 - 個人2名出場
 - 共通女子200m 8位入賞

- 柔道部
 - 平成30年度千葉県総合体育大会
 - 柔道の部
 - 男子個人81kg級
 - 県大会出場(2回戦進出)
 - 青柳 康生(中学3D)
 - 平成30年度千葉県新人中学校柔道
 - 男子個人66kg級 県大会出場
 - 大上 駿(中学2H)
- ハンドボール部
 - 平成30年度関東高等学校体育大会
 - ハンドボール競技千葉県予選会
 - 女子・ベスト16
 - 平成30年度千葉県高校総合体育大会
 - ハンドボール競技
 - 男子・ベスト8 女子・ベスト16
 - 平成30年度新人高等学校体育大会
 - ハンドボール競技
 - 男子・4位 女子・ベスト8
 - 第36回千葉県高校ジュニアハンドボール選手権大会
 - 男子・3位
 - 第30回千葉県高校1年生ハンドボール大会
 - 女子・2位
 - 第32回関東高等学校テニス大会
 - 千葉県予選会
 - 男子・女子団体・ベスト16
 - 男子シングルス出場
 - 第71回千葉県高等学校総合体育大会
 - 男子団体・ベスト32
 - 女子団体・ベスト16
 - 第50回千葉県高等学校新人テニス大会
 - 男子団体・ベスト32
 - 女子団体・ベスト16
 - 女子ダブルス出場

高校

- 陸上競技部
 - 第71回千葉県私立高等学校テニス大会
 - 男子・女子団体・ベスト8
 - 平成30年度千葉県高校新人陸上競技大会
 - 男子1500m
 - 第8位 4分04秒18
 - 藤原潤乃佑(高校2B)
 - 第72回千葉県高等学校駅伝競走大会
 - 男子23位
 - 平成30年度千葉県高校総体陸上競技大会
 - 出場
 - 平成30年度千葉県高校新人陸上競技大会
 - 出場
 - 第61回関東高等学校体育大会千葉県予選サッカーの部
 - ベスト32
 - 第71回千葉県高等学校総合体育大会
 - 千葉県予選サッカーの部
 - 出場
- バスケットボール部(男子)
 - 第71回千葉県高等学校総合体育大会
 - バスケットボール大会
 - 県大会1回戦
 - 第71回千葉県高等学校総合体育大会
 - 剣道大会
 - 男子団体 出場
- 剣道部
 - 平成30年度関東高等学校男子バレーボール大会千葉県予選会
 - ベスト32
 - 平成30年度千葉県高等学校総合体育大会バレーボールの部
 - ベスト32
 - 平成30年度全国私立高等学校バレーボール選手権大会千葉県予選
 - ベスト4
 - 平成30年度千葉県高等学校新人バレーボール大会
 - ベスト16
- バレーボール部(男子)
 - 平成30年度関東高等学校男子バレーボール大会千葉県予選会
 - ベスト32
 - 平成30年度千葉県高等学校総合体育大会バレーボールの部
 - ベスト32
 - 平成30年度全国私立高等学校バレーボール選手権大会千葉県予選
 - ベスト4
 - 平成30年度千葉県高等学校新人バレーボール大会
 - ベスト16

四、ご退職の先生

御喜和先生(理科)、山田純夫先生(理科)、小林健一先生(書道)がご定年で、中山健太郎先生(英語)が一身上のご都合で退職されました。

アワード贈呈部活からの報告

◆全国大会出場報告

中学水泳部 三年G組 山口将太郎

僕はこの夏に懸けていた。なぜなら、中一・中二の時はリレー種目でしか全中に出場できなかったからだ。「今年は絶対に個人でも突破するぞー!」との思いで一生涯懸命、練習やトレーニングに取り組んだ。その結果、全中予選では、リレー種目は三年連続、個人種目では一〇〇mバタフライで全国標準記録を突破することができ一安心した。

でも僕の目標はそれだけではない。全国大会の舞台で「決勝に進出する!」という目標だった。本当に毎日毎日がむしゃらに練習をし、合宿も今まで以上に頑張った。時にはプレッシャーや期待に押し潰されそうになり、親とぶつかったこともあった。でも僕は決勝に進みたいという一心でひたすら突き進んだ。

そしてメンバーと全国大会の舞台である岡山へ飛び立った。そこは灼熱の屋外プールに海風…不安だったが、あとは自分を信じて泳ごうと思った。

大会二日目、四〇〇mメドレーリレーの予選から始まった。メンバー全員ベストを尽くしたが惜しくも十位、決勝には届かなかった。リレーではあったものの自分の一〇〇mバタフラ

イの記録が五十六秒五六と好タイムが出たので、明日の個人種目は「絶対にやってやる!」と自信に満ち溢れていた。

大会三日目、有言実行をする日がやってきた。期待と自信を胸に秘め、レーンの前に立った。名前をコールされる前に、いつものルーティーンである全身を叩き、シリコンキャップを直そうと指をかけた。引っ張ったその瞬間ビリッと破れてしまった。シリコンキャップを脱ぎ、とにかく平常心を保とうと深い深呼吸をした。僕は今までキャップが破れた事は一度もなかった。「なぜ今?!」なぜ全国大会で?!」と思っっているうちに笛が鳴り、スタート台に立った。やるしかなかった。

ゴールに着いて電光掲示板を見た。ベストは出せた。しかしランキングが表示されると全体の九位。八位と一〇〇分の二秒差で決勝進出を逃してしまった。僕は悔しくて悔しくて泣き崩れた。人目もはばからずずっと泣きじゃくっていた。もしあの時キャップが破れていなければ…もしあの時替えのキャップを持っていれば…と悔しさと後悔ばかり。時間を戻したかった。

東邦の控え場所に戻り、みんなの顔を見たらまた涙が出てしまった。そして仲間言葉に助けられた。もし一人だったら耐えられなかったかもしれない。先生や仲間がいてくれたし、たくさんサポー

トをしてくれた。

ここまで来られたのも、学校、先生、仲間、コーチ、親、色々な支えやサポートのおかげだと思う。本当に色々な事に感謝の気持ちでいっぱいだ。そしてこの悔しさをバネに、高校では個人とリレーで全国標準記録の突破ができるよう、士気を高め合いながら頑張っていきたい。その先の国体やJ.Oでの優勝、世界大会出場に向けて努力し続けたいと思う。

この夏の悔しさを絶対に忘れない!!



◆南関東大会に出場して

中学硬式テニス部 二年日組 沼田 光晟

僕たち硬式テニス部は、十一月四日に千葉県総合スポーツセンターで開催された南関東中学生テニス選手権大会（団体の部）に出場しました。

団体戦は五本対決でダブルス二本シングルス三本の五対戦で三勝した学校の勝利となるルールで、僕は部長として主にシングルスに出場しました。夏の予選会でシードを獲得し、東邦中

学は千葉県新人大会では順調に準決勝まで勝ち進んだが市川中学に、三位決定戦では八千代松陰中に敗退し四位という結果に終わった。僕は負けてしまった試合もあったけれどチームメイトが勝ってくれて四位にもなる事ができ、自分的にもベストを尽くすことができたので悔いはありませんでした。惜しくも関東大会には出場できませんでしたが、千葉県から四校出場できる南関東大会に出場が決定し、部長としてほっとしました。僕は昨年先輩たちとこの南関東大会に出場しましたが、補欠だったので今年こそは結果を残したいと思っていたので、自分たちの学年で出場が決定し本当に良かったです。

南関東大会の当日、昨年よりも緊張してしまいかと心配でしたが、やはり同じ学年の仲間と出場することもあり、リ



ラックスして試合に臨むことができました。対戦相手は神奈川県優勝校の桐光学園でした。実はこのチームは去年先輩たちが負けてしまったチームで、かなりの強敵でした。結果は初戦敗退という悔しいものとなり、自分も二一六で力を出し切ることができずとても悔しかったです。しかし、この大会で得た経験を活かし今後の試合に臨みたいと思いました。

四月からは最高学年の三年生となり後輩たちも増えますが、夏の大会では二位以内に入り関東大会に出場するためにみんなで一生懸命練習したいと思います。

◆令和元年度 中学硬式テニス部女子

●年●組 大島悠以奈

私が一年生のときに、新人戦で悔しい思いをたくさんしたので、私たちが主役の二年生になつたら、南関東私学大会に絶対に出場しよう、心に決めていました。

二年生になり、大会に向けてたくさん練習をしました。部活動だけではなく、それぞれの選手が各自でも練習をしました。振り返ると、それぞれの選手の南関東私学大会出場への思いがととても強く、団結して頑張れたのだと思います。そして、迎えた大会当日、皆が最大限の力を出し切りました。特に、二位決定戦では、時間の都合上五試合全て一気に入ることになり、そのときは応援の人たちも五つに分かれてそれぞれのコートに応援してくれました。私は相手の学校の二番目に強い選手と戦うことになりました。最初は苦戦していましたが、冷静になって気持ちを切り替え、勝つことができました。試合が終わるとすぐにまだ、試合をしている他のコートの応援に行きました。全ての試合が接戦でしたが、何とか東邦は勝利をおさめ、三対二で県大会準優勝という結果を得ることができました。夢であった、南関東私学大会出場だけでなく、関東新人大会出場を果たしました。嬉しくてたまらなく皆で号泣しました。それから、私学の全国大会を目標に練習を重ね、南関東私学大会当日を迎えました。みんな全力を出し尽くしこのときも全ての試合が接戦でした

が、一対二で惜しくも初戦敗退という悲しい結果になりました。試合の後は悔し涙をみなで流しました。それから、すぐに関東新人大会でした。南関東私学大会の時よりも一気にレベルが上がったように感じました。それでも、一回戦を何とか突破することができました。二回戦は全国出場常連校との対戦になったのでみんなは全ての力を出し切ってがんばろうとしました。このとき私はキャプテンとして勝利をおさめました。しかし、結局一対四で負けてしまいました。しかし、練習の成果を出し切ったので、この時は泣きませんでした。

私達がたくさん涙を流せたのも、頑張って毎日を大事に一歩ずつ踏み込めたのも、部活動の時に一緒に練習をして大会では応援を



してくれた仲間たち。大会のたびに応援して心のサポートをしてくれた保護者の方々、最後まであきらめずに練習を見てくださった顧問の先生方のおかげだと思います。また、南関東、関東大会に出場できいろいろな経験ができたのも学校のご支援があつてこそのものだと思います。本当にありがとうございます。

◆さらなる高みへの第一歩

スキー部部长 大久保栄斗

東邦高校スキー部は現在、男子三人、女子三人、中学生十二人でアルペンスキー、クロスカントリースキーと二つの競技に分かれ活動しています。自分はクロスカントリースキーを専攻しています。多くの人に、「スキー部って何してるの?」と聞かれてしまうため、どのような競技か、お伝えしたいと思います。

アルペンスキーは斜面の決められたコースを滑り降り、その速さを競う競技です。その魅力は何といつても、ダイナミックの動きと、一瞬の操作ミスで順位が大きく変わってしまうという緊張感です。高校生大会ではスラローム、ジャイアントスラローム、スーパージャイアントスラロームの三つの種目があります。三つの競技の違いは、立てられた旗の間隔によるものです。冬のトレーニング環境に恵まれない千葉県の手選手は大概、ジャイアントスラロームを得意とするようです。

クロスカントリースキーは、走るスキーと呼ばれるほどの心肺に負担のかかるスポーツで

す。自然の中に作られた平地、下り、上りのあるコースを滑りタイムの速さを競う競技です。平地や上りを滑るときは苦しい時もあります。下りは気分爽快です。ゴールした後の達成感は何にも代えがたいものがあります。

他校の選手は、夏季に海外で合宿を行う人が多いのですが、彼らに勝つために、頭を使いながら工夫して練習しています。自然とどうまくやっていたいかなければならない特殊なスポーツであるスキーでは、個人個人の人間力が試されます。選手同士で互いを尊重し、支えて下さる様々な方々への感謝を忘れてはなりません。今年一年間、みんなで高めあい、よいシーズンにしたいと思います。



◆平成三十年度中学校サッカー部活動報告

中学校サッカー部顧問 岡野 浩貴

平成三十年度の中学校サッカー部の活動のおもなものを報告させていただきます。

◎大会成績

①中学校新人戦大会

・市大会 優勝

一回戦 対 習志野三中 (三―〇)

準決勝 対 習志野六中 (七―〇)

決勝 対 習志野二中 (六―〇)

・県大会 準優勝

一回戦 対 旭二中 (二―二)

二回戦 対 大原中 (二―〇)

三回戦 対 我孫子中 (二―〇)

準決勝 対 おゆみ野南中 (二―二)

決勝 対 暁星国際中 (〇―二)

②首都圏私立中学校チャンピオンズカップ

準優勝

予選リーグ

対 多摩大学目黒中 (二―〇)

対 法政二中 (二―二)

対 慶應義塾中 (二―〇)

準々決勝

対 世田谷学園中 (三―二)

準決勝

対 國學院久我山中 (二―二)

決勝

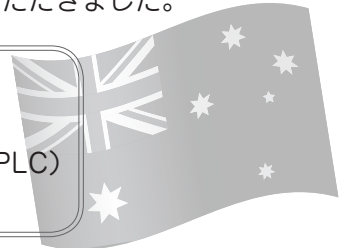
対 東海大学菅生中 (〇―一)

海外親善交流

★会報編集部より

サッカー部のオーストラリア親善交流が、「部活動を通しての国際交流」の先陣として、平成三十年三月末に行われました。昨年度の会報において校長先生からご報告もいただいたわけですが、その後、同窓会会員の皆様から数多くの問い合わせがございましたので部顧問の先生に情報提供をお願いし、親善試合の詳細を掲載させていただきました。

《実施期間》2018年3月25日(日)～30日(金)
訪問先/オーストラリア プリスベン
交流校/セントピーターズ・ルーテランカレッジ (SPLC)
 プリズベンボーイズカレッジ (BBC)



親善試合結果

日時	3月27日	
気象	天候:曇り一時雨	※試合中、スコールのような大雨に見舞われる。
	気温:28℃	

対戦相手 St.Peters

第1試合	U14 9:00キックオフ					
結果	東邦中	0	前半		1	St.Peters
			0	1		
			後半			
			0	0		

第2試合	U15 10:15キックオフ					
結果	東邦中	8	前半		0	St.Peters
			4	0		
			後半			
			4	0		

日時	3月28日	
気象	天候:晴れ	
	気温:29℃	

対戦相手 BBC ※2試合を同時展開

第1試合	U14 12:00キックオフ					
結果	東邦中	7	前半		0	BBC
			1	0		
			後半			
			6	0		

第2試合	U15 12:00キックオフ					
結果	東邦中	2	前半		1	BBC
			0	1		
			後半			
			2	0		



特別寄稿

◆平成三十年度末で母校を定年退職された先生方から寄稿いただきました。

芸術科「書道」担当

小林 健 一

この三月をもって四十二年間の長い教師生活に区切りをつけることになりました。東邦は私立ですので他の学校への移動ということもなく、教師生活四十二年間すべて東邦でした。まだ実感が湧きません。

思えば四十二年前東邦の門をくぐり教師という職業のスタートを切った訳ですが、教師という職業は三月まで学生で四月になりいきなり先生と呼ばれ、生徒に教えていく訳ですが、戸惑うことばかりでした。特に「書道」という教科は他の教科と違い、なかなか本質的なところは理解されず、小学校時代に学習したいわゆるお習字という考えが、染みついているので、どのようにして「書道」への意識を高くしていったらいいのか最後まで出来なかったような気がします。

私が勤めたこの四十二年間は東邦としても色々変化があった期間ではないかと思えます。まず、校舎が今の場所に移ってきて、施設としては、中学校理科棟、第二体育館（室内プール）、特別教室棟、高校校舎増設、セミナー館、校庭の人工芝化とかかなりの変化がありました。これらの施設が建てられた所に何があったかを知る先生方も少なくなってきました。

行事では夏休みに夏山跋涉と言って登山（軽い）とハイキングがあり、冬休みには一月にスキー教室がありました。このスキー教室は一年生全員参加で、今のように生徒を現地の教室に入れて講習を受けさせるというのではなく、生徒を班別にし、先生方が教えるというものでした。今では考えられませんが、時代ですね。用具も学校で用意をして生徒に貸し与えるというものでした。また修学旅行は試行錯誤を重ねた時代だったと思います。まず就任当初は定番の奈良・京都。このときは春休みに実施していました。次にこれに広島原爆施設が加わり（前の中学校の修学旅行とほぼ同じだと思います）、足を伸ばして山口の秋芳洞。四国にも渡りました。一番特徴的だったものが船を使ったの修学旅行でした。これは保護者の関係で三年間でしたが、北海道または四国までの船旅です。最初は修学旅行での飛行機の使用が不可だったと言うこともあり、あまり遠くには行けませんでしたが、飛行機が解禁になってからは行きは新幹線、帰りに飛行機という変則的な形から始まりました。これで北九州まで足を伸ばしました。（これは現在中学生が実施しているものに近いものです。）その次にもっと足を伸ばして沖縄になりました。沖縄での修学旅行が定着したころに他の私学では海外の修学旅行を企画しているところも多く

なってきたりと言うこともあり、東邦でも海外の修学旅行をというところで、その実施に向けて先生方が努力をされ実施の運びになりましたが、世界が脅かされた九、一一のテロの影響で直前になり中止になってしまいました。その後は現在行っている北海道に落ち着いています。今後時代の変化により変わっていくことになるでしょう。

部活の顧問は当然書道部で、活動は毎日の練習と、文化祭での作品展示でした。文化祭での展示場作りで、書道室の机を積み上げ、暗幕を張りそこに作品を展示するという大変な作業でした。特に部員は他の学校同様女子ばかりで（というかこの四十二年間で男子は一人でした。）この作業は特に大変でした。また、この文化祭に向けての作品制作では夏に合宿を行いました。今のように学校にエアコンもなく（当時としては当たり前でしたが）、暑い中作品を書いていると作品に汗が落ちてせっかく書いた作品がダメになってしまう経験も今思うと良い思い出です。

また、陸上部の先生が退職されたのを機に、陸上部の顧問も任されることとなりました。私自身高校時代に陸上を経験したということと、他に顧問を引き受ける先生がいらっしゃらなかつたこと、当時は若い先生が少なかったという理由で、もともと身体を動かすことが好きだった事もあり（実は書道の先生は割と身体を動かす事が好きな



高校陸上部員とともに

先生が多いのです。書道部との掛け持ちではありましたが、引き受けることとなりました。陸上というのは他のスポーツと違い色々な種目があるので、陸上経験者といえどもそれらすべてを経験してきているわけでもなく、生徒が「この種目をやりたい」と言ってくれば指導しなければなりません。そんな時には指導書を必死に読み、競技会で他の学校の専門の先生が生徒を指導していればそれを見たり、様々な方法で情報を収集してなんとか指導してきました。そんな素人同然の私の指導にもかかわらず多くの生徒が集まってくれ、全国大会に一名、関東大会に四名が出場してくれました。

つい最近まで書道部、陸上部を一人で任されていたので、書道部の方は活動中ケガ等の心配が無いので、書道室で作品を書かせておいて、陸上部に出て、途中書道部をのぞきに來るといふ、書道部の生徒には大変申し訳ないような形で指導してきました。書道部の生徒には申し訳なく思っています。おまへは書道の教師だろうと言われれば返す言葉もありません。

このように四十二年間という長い間なんとかやってこられたのは先生方、生徒のお陰だと思っています。長い間ありがとうございました。

理科「物理」担当

山田 純夫

私が教師を志したのは、中学のときにお世話になった理科の先生にあこがれて、自分もその先生のようにになりたいというのがきっかけでした。その理科の先生には、授業だけでなく、担任として、部活動の顧問としても色々面倒をみてもらいました。また夏休みには、仲間十数名ほどで房総の山にキャンプに連れて行ってもらったり、個人的に東京の秋葉原の電気街に買い物と一緒に買ってもらうたりもしました。

二十七歳で東邦中学校に勤め、最初は数学を教えました。四年目から高校で「物理」を教えるようになりました。授業では、どうしたら生徒にわかってもらえるか、理解しやすい授業、興味関心をもってもらえるかをいつも考えていました。他の学校の研究授業に積極的に参加し、授業の方法を自分なりに研究しました。また実験器具の製作や実験方法の研究会にもできるだけ参加して、自分の授業で生かせるものを少しでも吸収しようと思いました。生徒に実験をさせたり、演示をして見せたりという機会を増やそうと心がけたつもりです。しかし、今振り返ると独りよがり、受験に向けての知識を教えるだけで、教科の本当の面白さを教える授業ではなかったように思います。

ホームルームや生徒との活動では、体育祭・文化祭、合唱コンクール等の学校行事で常に学年・学校のトップに立つことを目指して、生徒に激励し、生徒とともに準備や練習に取り組んだように思います。行事を終えるごとに、生徒と共に達成感、充実感を共有できたように考えます。放課後の清掃活動も、生徒に校内・教室を綺麗に保つことの大切さを知ってもらい、さらに生徒との貴重な交流の機会と捉え、できるだけ教室で一緒に清掃をやるようにしました。

部活動では、陸上部の顧問を三年間、水泳部の顧問を十四年間、バレーボール部の顧問を十一年間務めさせていただきました。中学の陸上部では、剣道部・バスケット部・ハンド部の長距離の速い選手に応援を頼み、習志野市中学校駅伝大会で優勝することができました。

また、水泳部では、背泳ぎの速い女子生徒が中学校より入部し、中学・高校の全国大会や国体の千葉県代表として活躍してくれました。バレーボール部では、三十年ほど前、当時は、日本の男子バレーボールがミュンヘンオリンピックでロシアに奇跡の逆転劇で金メダルを

取った時代であり、その頃は市立船橋高校が、本校の男子バレーボール部と練習試合をしてくれたことも印象に残っています。

実際のところ私は、自分が中学生・高校生のとき体育の授業が一番苦手でした。そんな私ですが、よく体育系の運動部の顧問を務められたと思います。技術的な指導は、あまりできませんでしたが、生徒とともに負けたときの悔しさ、勝ったときの喜びを共有できたことは私の教師生活の中のかげがえのない思い出です。

素晴らしい生徒に囲まれ、定年退職の日を迎えられたことを大変嬉しく思います。在校生・卒業生の皆さんの輝かしい将来に幸多かれというのと、東邦中学校・高等学校の発展を祈り、退職の挨拶とします。長い間本当にありがとうございました。



34期生とともに (平成30年12月3日)

理科「生物」担当

御 喜 和

平成三十一年三月三十一日をもって東邦中高を定年退職いたしました。私は同窓会「自生人」の理事の一人でもありますので、退職したといっても同窓会会員の皆様との繋がりは続くこととなりますが、やはり大きな節目です。「半世紀に及ぶ東邦中高との関わり」を振り返りつつ、感謝の思いと今後への抱負を綴らせていただきます。

私は昭和四十一年四月に東邦中学に入学しました。その頃の東邦中高は現在の東邦大学習志野キャンパスにありました。校舎は戦前の習志野騎兵隊の馬舎に多少手を加えただけの簡素なものでしたが、超高校級の理科実験教室、天文台、プラネタリウム、広々としたグラウンド等、教育環境はそれなりだったと思います。

ちよつと脱線しますが、当時の習志野には、「戦前の軍都の繁栄」の名残がそこかしこに残っていました。大久保商店街は往時を偲ばせる賑わいが確かにありました。

私は結果として理科「生物」の教員になったわけですが、中高時代にご指導いただいた二人の「生物」の先生への憧れと授業での体験が、進路実現への大きな推進力となりました。

中学三年間、学級担任でもあった桑垣傳護先生は、「好々爺」と言った感じの優しい先生でした。先生が黒板にお書きになる昆虫の図は本当に見事でした。さらさらと体節の数まで正確な図を描くわけです。

ある日の授業中。「これから起こることをよく見ておきなさい」、先生はそう仰って教室の窓を開けました。軒下にクモの巣があり、大きなアゲハチョウが苦しそうにもがいていました。「かわいそうに・・・」と恐らく皆が思っ

ているところに忽然とクモが現れ、自分よりはるかに大きなアゲハチョウを「糸」でぐるぐる巻きにし始めたのです。

高校卒業学年担任の小室彬先生。「生物」の授業で何度も自然散策に連れて行ってくれました。当時は学校周辺に豊かな自然が残っていました。道中の「野草のお話」もそれなりに楽しかったのですが、特に印象に残っているのが、二宮神社の境内で小室先生がプロデュースした凄惨な生態ショーです。

アリは必死にアリジゴクの巣（穴）から這い上がろうとしていましたが、側面の土が滑り落ちて叶いません。そこに土の中に潜んでいたアリジゴクが現れ・・・。

生物の世界の厳しさを垣間見たときの気持ちは、心地よいものではありませんでしたが、その時感じたこと、考えたことが、その後の学志の大きな要因となりました。

私は二人の恩師を思い浮かべながら、「生物」の授業を通しての「自然・生命・人間」具現化に努めてきたつもりです。どこまで恩師に近づけたか、「恩師の教え」に報いることができたのか、自信はありませんが、素直で向学心旺盛な生徒たち相手に授業に取り組めたことはありがたいことでした。

本校は数年前にオーストラリアのプリズベンにあるセントピーターズ・ルーザラン・カレッジ（略称 SPLC）と姉妹校提携を結びました。

そして、両校の絆を支えとして様々な教育企画を開拓しつつあります。「サイエンスコース」と命名した企画ではプリズベン、ゴールドコースト周辺の圧倒的な自然を学びます。指導はクインズランド大学の教官、動物保護団体の指導官、本校の生物教師が協力して行います。昨年八月、この企画の第一回目が行われ、私は团长として同行しました。手前味噌ですが、「自然・生命・人間」具現化を目指す企画として大

成功だったと思います。参加した生徒たちは本当に輝いていました。新しい充実した「生物」教育が東邦中高の中に根付き、継続し・さらに発展していくとしたら本当に嬉しいです。

私の人生はまさに東邦中高とともにありました。「退職したら、東邦からは少し距離を置いての自己実現に挑戦したい」以前から私はそんなことを考えてきました。でも冒頭に申し上げたように私は同窓生です。唯一無二の母校が東邦中高です。気負わず自然体で母校と関わりつつ「前へ」に進んでいこうと思います。同窓会会員の皆様、今後ともよろしくお願いいたします。



SPLC 姉妹校提携



オーストラリア研修「サイエンスコース」

2019 東邦大学附属東邦中学校・高等学校 学校見学会・学校説明会・入試説明会日程

■学校見学会・説明会（どなたでも参加できます）

日程			予約開始日
2019年	4月	20日・27日	3月7日
	5月	18日	4月1日
	6月	1日・29日	5月1日
	8月	3日・31日	6月1日
	9月	7日・21日・28日	7月1日
	10月	12日	8月1日
	11月	2日・10日・17日	9月1日

夏休みに授業・部活動の「体験見学会」を追加で実施します。

10:00 集合
10:00～11:40 「学校見学ツアー」
11:00～12:00 「学校説明会」

■プレミアムフライデー学校説明会

日程		予約開始日
7月	26日	6月1日
8月	23日	7月1日



■ナイト学校説明会

日程		予約開始日
5月	10日・30日	4月1日
6月	21日	5月1日
10月	11日	9月1日

17:30 集合
17:30～18:00 「ナイト・プレミアム」
18:00～19:00 「学校説明会」
※「プレミアム・イベント」の内容は後日発表します。
※一般生、帰国生の両方に対応します。
※「学校見学」はありません。また、カフェテリアの営業はありません。



■入試説明会

・中学校入試説明会

10月23日（水）14:00～15:10
10月24日（木）14:00～15:10
予約受付開始 9月1日

・高校入試説明会（帰国生入試）

10月19日（土）10:00～11:10
予約受付開始 9月1日

2019年 銀杏祭（文化祭）※予約不要

9月14日（土）9月15日（日）
・広報部主催「入試相談会」
・生徒会主催「東邦ツアーズ」

HP から全てのお申し込みができます
TEL 047-472-8191（代表）
<http://www.tohojh.toho-u.ac.jp>

平成三十一年度 大学入試結果報告

進路指導部 山崎 宣彦

大学入試センター試験概況

平成三十一年度の大学入試センター試験(以下、センター試験)は、一月十九日・二十日の両日に、全国六九三の会場で実施された。

志願者数は五十七万六八三〇人で前年比九十九〇%と減少した。十八歳人口の減少に加え、二〇一八年度の私立大入試難化の影響から推薦・AO入試へ回避した受験生が多かったと推測される。

多くの国公立大で必要となる五教科の受験者平均点は、文系五教科八科目が五七〇点(九〇〇点満点)で昨年から十六点上昇、理系五教科七科目が五七六点で十三点上昇となった。主要科目である「国語」および「英語(リスニング)」の平均点上昇の影響が大きく、得点率八割以上の高得点層は文系、理系とも増加しており、比較的高得点がとりやすい状況だったことがうかがえる。

本校の出願者数は三四六名(出願率九五・八%)で、ほぼ例年並みとなった。受験会場は、昨年度と同じで、千葉工業大学(津田沼キャンパス)・東邦大学(習志野キャンパス)・日本大学生産工学部(津田沼キャンパス)の三か所となった。各科目の概況であるが、「国語」「英語(筆記)」「数学I・数学A」「物理」「生物」および地歴・公民の全科目で全国平均点との差が昨年度よりも大きい結果となり、健闘した。文系五教科八科目では全国平均点との差が昨年度よりも大きい結果となったが、理系五教科七科目では全国平均点との差が昨年度よりもやや小さくなった。上位層については昨年とほぼ同じで、九〇〇点集計で八〇〇点以上は文系一名、理系五名で合計七名であった。

国公立大学志願状況

国公立大学の全国の志願者総数は前年比一〇一%と増加し、昨年まで七年連続の減少であったところが、やや増加に転じた。また、今年も近年続いていた「文高理低」傾向に変化が見られた。

文系では、「文・人文」、「法・政治」で前年より増加したが、昨年の人気系統であった「経済・経営・商」では前年より減少し、敬遠された様子が見られた。理系では、「工」で前年より減少であったが、その中で人気となっている情報系では、増加した大学も多かった。「医」では前年より減少し、前期日程では五

年連続の志願者減となった。「薬」でも前年より減少し、特に難関大で志願者減少が目立った。

難関国立大では志願者減の大学が多くなった。センター試験の平均点が前年度より上昇して高得点層が増加した年には強気の出願傾向になることが多いが、センター試験の配点比率の低い難関大よりも、志望を下げたセンター試験の配点比率の高い大学を選ぶ安全志向の傾向があったものと考えられる。

私立大学志願状況

私立大学の一般入試の志願者は、全体で前年比一〇三%とやや増加した。方式別では、一般方式は前年並みだが、センター方式で前年比一〇八%と増加した。センター方式の志願者増は、センター試験のリスニング、国語の平均点上昇が影響しているであろう。全体の志願者数は増加したが、一般入試の一般方式の志願者数は、前年比で早稲田大九十二%、慶応大九十七%、上智大九十%、青山学院大九十三%、法政大九十二%、明治大九十四%、立教大九十五%と難関大での減少が目立つ一方、東洋大一〇八%、駒澤大一〇六%、専修大一二〇%、工学院大一二五%、東京電機大二七%、など、強い安全志向が見られた。これは、昨年度も都市部の大規模大学の多くで合格者数の絞り込みがあったために「一般入試が難化したことからの志向であろう」。

学部系統別では、「理」、「工」は志願者増であったが、文系ではほぼ前年並みで、二〇一八年度までの明らか文高理低傾向に歯止めがかかった。医療系は不人気が目立ち、前年比で「医」九十六%、「薬」九十三%、「看護」九十六%となっている。

本校の入試結果

本年の合格者総数は前年度比一〇六七%となった。文系では学部系統別ごとの増減はあるが、全体としては昨年とほぼ同じであった。理系では医・歯・薬・看護および農・林・水産・海洋で減少、理および工でやや増加となり、全体としては昨年よりやや増加した。

国公立大学の合格者数では、東京大および旧帝大で昨年より増となったが、東京工業大、一橋大、および、国公立医学部では昨年より減となった。千葉大の合格者数は昨年よりも大幅に増加し、特に現役生が健闘して過去五年間で最高となった。国公立大全体としては昨年の合格者数を上回る結果であり、特に現役生が健闘した。

私立大では、早稲田大、慶應義塾大、東京理科大学のいずれも昨年を上回る結果となった。全国的には難関私立大の志願者数が減少している中、過剰な安全志向とならずに、高い志望を持って取り組むことができたからであろう。私立医学部の合格者数は昨年よりも減、薬学部は増となった。

【表1】過去3カ年間のセンター試験平均点

年度	国語	数学		外国語		理科						地理歴史			公民			
		数学 I A	数学 II B	英語 筆記	リスニング	物理 基礎	化学 基礎	生物 基礎	物理	化学	生物	世界史 B	日本史 B	地理 B	倫理	政治経済	倫理・政経	
29	本校	135.1	81.6	72.2	160.5	35.5	38.3	38.0	43.5	75.4	64.9	80.1	70.3	79.8	71.7	72.0	77.6	67.7
	全国	106.9	61.1	52.0	123.7	28.1	29.7	28.6	39.5	62.9	52.0	69.0	59.3	65.4	62.3	54.7	63.0	66.6
	差	28.2	20.5	20.2	36.8	7.4	8.6	9.4	4.0	12.5	12.9	11.1	11.0	14.4	9.4	17.3	14.6	1.1
30	本校	132.0	76.9	67.1	157.2	28.9	37.8	37.7	42.6	72.9	72.6	74.9	76.1	78.8	73.8	77.5	63.4	75.7
	全国	104.7	62.0	51.1	123.8	22.7	31.4	30.4	35.6	62.4	60.6	61.4	62.2	68.0	68.0	67.8	56.4	73.1
	差	27.3	14.9	16.0	33.4	6.2	6.4	7.3	7.0	10.5	12.0	13.5	13.9	10.8	5.8	9.7	7.0	2.6
31	本校	149.6	76.3	68.3	156.9	37.3	37.2	39.4	37.4	71.5	64.4	79.0	80.4	77.7	68.1	81.7	71.0	70.3
	全国	121.6	59.7	53.2	123.3	31.4	30.6	31.2	31.0	57.0	54.7	62.9	63.5	65.4	62.0	62.3	56.2	64.2
	差	28.0	16.6	15.1	33.6	5.9	6.6	8.2	6.4	14.5	9.7	16.1	16.9	12.3	6.1	19.4	14.8	6.1

【表2 平成31年度主な大学合格者数一覧】

主な私立大学				国公立大学等			
大学名	合格者数	学部名	内訳数	大学名	合格者数	学部名	内訳数
岩手医科	3	医	3	旭川医科	1	医	1
東北医科薬科	1	医	1	帯広畜産	1	畜産	1
国際医療福祉	9	医	6	北海道	10	経済	3
		保健医療	1			工	3
		成田看護	2			水産	1
自治医科	1	医	1			総合理系	5
獨協医科	4	医	4			弘前	1
埼玉医科	4	医	4	東北	5	法	1
千葉工業	13	工	7			工	2
		創造工	4			歯	1
		先進工	2	農	1		
青山学院	16	文	2	茨城	1	工	1
		法	2	筑波	10	人文文化	1
		国際政経	2			情報	1
		経済	2			理工	3
		経営	2			医	2
		教育人間	4			体育	1
		理工	2			生命環境	1
文	3	芸術	1				
学習院	10	法	1	群馬	2	理工	2
		経済	2	埼玉	3	理	2
		国際社会	1			工	1
		理	3	千葉	38	文	1
理	5	文	1				
医	4	法政経	4				
薬	11	教育	3				
医療衛生	1	理	5				
獣医	2	工	15				
海洋生命	2	医	2				
杏林	9	医	8			薬	3
		保健	1			園芸	5
慶應義塾	43	文	4			東京海洋	2
		法	5	お茶の水女子	3	海洋生命	1
		経済	5			理	2
		商	6	電気通信	1	生活科学	1
		理工	15			情報理工	1
		環境情報	2	東京	9	文科一類	1
		薬	4			文科二類	1
		看護医療	2			工	1
		教養	2			理科一類	1
		工	27			理科二類	5
芝浦工業	38	シス理工	5	東京外国語	1	言語文化	1
		デザイン	3	東京芸術	1	美術	1
		建築	3	東京工業	3	理	1
順天堂	4	工	1				
上智	28	医	4	東京農工	1	理工	1
		文	1	一橋	2	商	2
		外国語	2	横浜国立	2	理工	2
		法	6			新潟	1
		経済	8	信州	3	理	1
		総合グロ	1			工	1
		総合人間	5			医	1
昭和	8	理工	5	静岡	2	理	1
		医	5			工	1
		歯	1	浜松医科	1	医	1
聖路加国際	3	薬	2	名古屋	1	工	1
		看護	3	滋賀	1	データサ	1
中央	23	法	4	鳥取	1	医	1
		経済	1	広島	1	生物生産	1
		商	4	徳島	1	医	1
		国際情報	1	九州	1	法	1
		理工	13	札幌医科	1	医	1
津田塾	4	学芸	4	前橋工科	1	工	1
東海	4	理	1	埼玉県立	1	保健医療	1
		医	3	首都大学東京	2	都市環境	1
東京医科	2	医	2			理	1
東京慈恵会医科	1	医	1	横浜市立	4	国際教養	1
東京女子	9	現代教養	9			理	1
東京農業	21	国際食料	1			医	2
		地域環境	3	京都府立医科	1	医	1
		農	2	大阪府立	1	工	1
		応用生物	10	防衛医科	2	理	2
		生命科学	5	防衛	4	理	4
東京薬科	2	生命科学	2	国立合計	127	127	
東京理科	147	経営	15				
		理	23				
		工	25				
		理工	54				
		基礎工	16				
		薬	14				
東邦	38	理	10	東邦	38	理	10
		医	16	医		16	
		薬	11	薬		11	
		健康科学	1	健康科学		1	
		法	11	法		11	
		経済	7	経済		7	
		商	4	商		4	
		文理	1	文理		1	
		工	3	工		3	
		生産工	11	生産工		11	
日本	67	理工	18	日本	67	理工	18
		医	3	医		3	
		歯	1	歯		1	
		薬	7	薬		7	
		生物資源	1	生物資源		1	
		医	1	医		1	
		文	2	文		2	
		人間社会	1	人間社会		1	
		理	4	理		4	
		家政	4	家政		4	
日本医科	1	医	1	日本医科	1	医	1
		文	2	文		2	
		人間社会	1	人間社会		1	
		理	4	理		4	
		家政	4	家政		4	
		文	2	文		2	
		法	3	法		3	
		経済	2	経済		2	
		経営	3	経営		3	
		社会	1	社会		1	
日本女子	11	現代福祉	2	日本女子	11	現代福祉	2
		国際文化	1	国際文化		1	
		人間環境	1	人間環境		1	
		情報科学	2	情報科学		2	
		デザイン	3	デザイン		3	
		理工	9	理工		9	
		生命科学	4	生命科学		4	
		薬	13	薬		13	
		文	6	文		6	
		法	6	法		6	
法政	33	政治経済	12	法政	33	政治経済	12
		経営	6	経営		6	
		商	6	商		6	
		情報コミ	2	情報コミ		2	
		総合数理	2	総合数理		2	
		理工	24	理工		24	
		農	2	農		2	
		薬	4	薬		4	
		文	5	文		5	
		現代心理	1	現代心理		1	
星薬科	13	法	2	星薬科	13	法	2
		経済	10	経済		10	
		経営	4	経営		4	
		観光	1	観光		1	
		異文化コ	1	異文化コ		1	
		理	7	理		7	
		文	2	文		2	
		文化構想	9	文化構想		9	
		法	3	法		3	
		政治経済	4	政治経済		4	
明治	66	商	10	明治	66	商	10
		社会科学	1	社会科学		1	
		教育	10	教育		10	
		人間科学	8	人間科学		8	
		国際教養	2	国際教養		2	
		基幹理工	7	基幹理工		7	
		創造理工	8	創造理工		8	
		先進理工	11	先進理工		11	
		スポーツ	3	スポーツ		3	
		藤田医科	2	医		2	藤田医科
同志社	4	文	2	同志社	4	文	2
		法	1	法		1	
		理工	1	理工		1	
		法	1	法		1	
立命館	4	産業社会	1	立命館	4	産業社会	1
		理工	1	理工		1	
		生命科学	1	生命科学		1	
		医	1	医		1	
近畿	2	薬	1	近畿	2	薬	1
		理	1	理		1	
久留米	1	医	1	久留米	1	医	1
産業医科	2	医	2	産業医科	2	医	2
その他	161		161	その他	161		161
私立合計	952		952	私立合計	952		952

新入会員を迎えて

同窓会はこの三月、三六一名の新しい仲間を迎えました。

新会員の希望に燃えたメッセージを紹介します。

この春私たち六十五期生は、沢山の思い出が詰まった学び舎をそれぞれの思いを胸に卒業しました。

卒業をしたあとに本校で過ごした時間を振り返ってみると、皆で一緒に沢山のことを考え、挑戦し、経験し、時には苦しみ、そして全力で楽しんでいくつものことが鮮明に蘇ります。そこで私がこの六年間で得たものはなんだったのか考えてみました。

まず第一に、努力を惜しまない、ということだと思います。何かに努力を惜しまず全力で取り組むことで、その後の結果が好ましいものであっても、残念ながらそうではなくても受け入れられることを経験しました。こうした経験を積み重ねたことで、何事にも失敗を恐れず本気で臨むことができるようになったと思います。

そして第二に、友達、です。友達を作るということは、簡単なようで実は人生の中で一番難しいことなのではないでしょうか。様々な学校行事や、クラスでの昼休み、十分休憩など気が付かないうちに築いてきた友情は、私にとってかけがえのない宝物です。これからの人生で、楽しい時も辛い時もお互い支え合う大切な存在になることでしょう。このような大事なものを得ることができたのは、

先生方、両親、関わってくれた全ての方々のおかげだと思っています。特に先生方におきましては、いつも生徒のことを考え、私たちを正しい方向に導いてくださり感謝の念に堪えません。本当にありがとうございました。

この先の人生で、今は考えもつかないようなことが数多く起こると思います。その時に本校で得た事を忘れずに、輝かしい未来に向かって着実に歩んでいきたいと思っています。

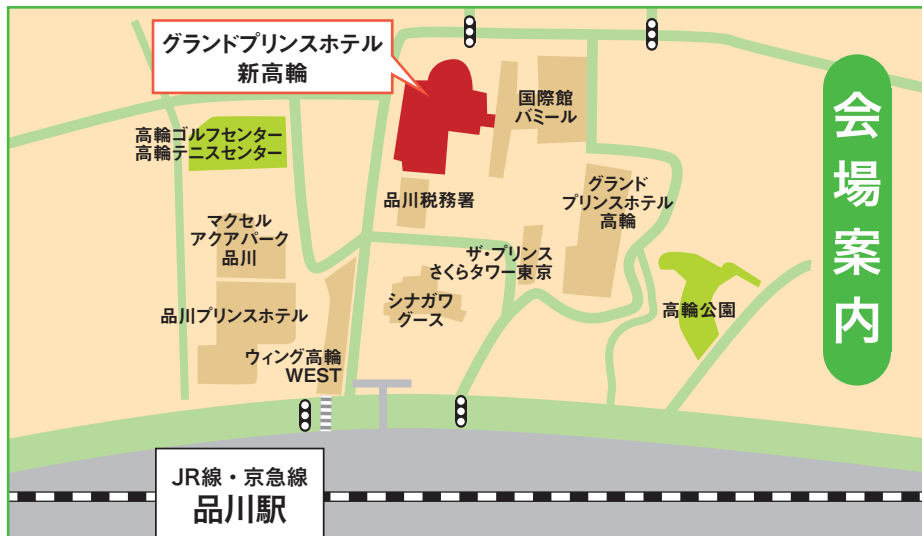
六十五期生 浪川 遥

同期会活動への補助について

今回の同窓会総会・懇親会に同期で揃ってご参加いただける方々には以下の補助をいたします。

- ・同期 10 名以上で参加…2万円補助
- ・同期 20 名以上で参加…3万円補助

(詳細については同窓会事務局にお問い合わせください)



◆同窓会総会・懇親会◆

日時 令和元年七月二十一日(日)
 十二時 総会開会
 十三時 懇親会開会

会場 グランドプリンスホテル新高輪
 (地下三階イルレオーネ)